

2006 年度 電磁気学 II 期末試験問題 (2006/7/24)

- $\mathbf{E}(\mathbf{r}) = -\nabla\phi(\mathbf{r})$ と書けるならば, $\nabla \times \mathbf{E} = 0$ であることを示せ.
 - $\mathbf{B}(\mathbf{r}) = \nabla \times \mathbf{A}(\mathbf{r})$ と書けるならば, $\nabla \cdot \mathbf{B} = 0$ であることを示せ.
- 半径 a, b ($a < b$) の無限に長い同軸導体円筒の静電場について, その中心軸を z 軸とする円柱座標 (r, φ, z) で考える. 系の対称性から, 静電ポテンシャルは r のみの関数, $\phi = \phi(r)$ である.

- $a < r < b$ で $\phi(r)$ の満たす微分方程式を書け. ただし, 円柱座標でのラプラシアンは

$$\Delta = \frac{1}{r} \frac{\partial}{\partial r} r \frac{\partial}{\partial r} + \frac{1}{r^2} \frac{\partial^2}{\partial \varphi^2} + \frac{\partial^2}{\partial z^2}.$$

- $\phi(a) = 0, \phi(b) = V$ として, 上で求めた微分方程式を解き, $a < r < b$ での $\phi(r)$ を求めよ.
 - 上の結果を用いて, $a < r < b$ での電場を求めよ.
- 極板の面積 A , 極板間の距離 d の平行板コンデンサーについて考える. このコンデンサーの極板間を誘電率 ε の固体誘電体で満たし, 電源に接続し極板間の電位差を V とした.
 - 極板間の電場の大きさ E と電束密度の大きさ D を求めよ.
 - 極板の電荷を求めよ.
 - 静電容量を求めよ.
 - 電源に接続したまま, 極板間の距離を $2d$ に広げた. (誘電体のない部分の距離は d である.) このときの極板の電荷を求めよ.

- 無限に長い厚みのある円筒を考える. 円筒の内側の半径を a , 外側の半径を b とする. 以下, この円筒の中心軸を z 軸とする円柱座標で考える. この円筒が磁化していて, 磁化は $\mathbf{M} = (M_0 b/r)\hat{\varphi}$ で与えられている. ただし, M_0 は定数で, $\hat{\varphi}$ は方位角方向の単位ベクトルである. 円柱座標でのベクトル場の回転は,

$$\nabla \times \mathbf{A} = \hat{r} \left(\frac{1}{r} \frac{\partial A_z}{\partial \varphi} - \frac{\partial A_\varphi}{\partial z} \right) + \hat{\varphi} \left(\frac{\partial A_r}{\partial z} - \frac{\partial A_z}{\partial r} \right) + \hat{z} \frac{1}{r} \left[\frac{\partial}{\partial r} (r A_\varphi) - \frac{\partial A_r}{\partial \varphi} \right]$$

で与えられる.

- 円筒内部 ($a < r < b$) の体積磁化電流密度を求めよ.
- 円筒の表面 ($r = a$ と $r = b$) の表面磁化電流密度を求めよ.
- 円筒の内側 ($r < a$) での磁束密度 \mathbf{B} を求めよ.
- 円筒の外側 ($r > b$) での磁束密度 \mathbf{B} を求めよ.